Architectural Institute of Japan

日本建築学会九州支部研究報告
第36号　1997年３月

鹿児島市におけるパブリックアートのある景観の認知度と印象
～景観演出によるまちづくりの効果と評価に関する研究　その２～

正会員○田之頭七絵[2)]
同　栫井銀二郎[2)]
同　友清貴和[1)]
同　山下剛[2)]

１．研究の背景と目的

最近自分の住んでいる町や旅行先の街角で彫刻や噴水などを見かけることが多くなった。しかし、自分の住んでいる町にある彫刻や噴水などについて考えてみても、一体いつどこにどのようにして設置されたのかということはおろか、どこが主体となって設置をおこなっているのかほとんど知らない、というのが正直なところである。そこでこの研究では、現在設置されているパブリックアート（以下P.A.）の設置場所、設置年代、設置事業、設置目的などを調べることに始まり、「P.A.を住民が知っているのか」あるいは「P.A.のある景観に対してどのような印象を持っているのか」をアンケートを行うことによって明らかにし、P.A.設置に対するP.A.を見る側の意識を探り、今後のP.A.設置に対する知見を得ようとするものである。

２．研究の方法

鹿児島市内において、屋外に設置されている造形物、彫刻、像、記念碑、噴水といったP.A.を対象に、まずP.A.を設置年度・設置事業・設置場所を調べた。次にP.A.の設置年度・設置事業・設置場所と昨年の調査の認知度をもとに12個のP.A.を選びこの12のP.A.に関してアンケート調査を行った。【表－1】

P.A.の設置年度・設置事業・設置場所は、P.A.の属性として分析の際の軸とした。【表－2】

アンケートの内容は、以下のとおりである。P.A.とそのP.A.のある景観を正確に知っているのか把握するために、背景の全くないP.A.単体の写真を提示し、そのP.A.を知っているのかどうかを質問した。また背景だけの写真を3枚提示し、そのP.A.が設置されているのはどの場所なのかP.A.単体が実際設置されている所の背景を選んでもらった。次に、何か実用的な目的でP.A.が利用されているのかを知るために今までにP.A.を利用した際に、待ち合わせ場所や道案内等のどういう目的で使ったのかについて尋ねた。最後に、P.A.のある景観に対する印象を把握するために、P.A.のない背景だけの写真とその背景の中に実際のP.A.も含めた異なる4つのP.A.を合成して作った5枚の写真を提示し、最も印象の良いと思う景観を1つ選択してもらった。

このアンケートを鹿児島市近郊に住んでいる人（学生や会社員とその家族など）を対象に行い、470の回答が得られた。被験者の属性としては、性別・年齢・居住地域・鹿児島県での居住年数・職業・職業内容の６つを考え、分析の際の軸とした。【表－2】

以上のデータからP.A.の属性と認知度の関係、被験者の属性と認知度の関係、住民の景観にたいする印象と認知度の関係、P.A.の実用的な利用の仕方を把握する。

※背景…パブリックアートを写真撮影したさいに取り込まれた設置場所の景観

【表2】属性の種類

	属性の種類
P.A.の属性	設置場所・設置年代・設置事業
被験者の属性	性別・年齢・居住地域・居住年数・職業・職業内容

【表－１】P.A.の設置状況

	P.A.名	設置年代	設置事業	設置場所類型	設置場所周辺環境
1	ま四角三つ	平成6年	ロマンチックオブジェ事業	公園	繁華街の公園のランドマーク　大通り側に植木がある
2	戦災復興２０周年記念塔	昭和40年	特に無し	水辺空間(川沿い)	周りに樹木が茂る
3	ししおどし	平成2年	まちかど整備事業	アーケード	アーケード内　周りに自転車などが並ぶ
4	朝の調	昭和58年	モニュメント建設事業	施設に隣接	広場の中央に建つ　障害物はない
5	天空をめぐる星	平成5年	タウンアメニティ事業	アーケード	アーケード内　バスの停留所が目の前にある
6	悠雄	平成4年	ロマンチックオブジェ事業	公園	大通に面する　公園のランドマーク
7	若き薩摩の群像	昭和57年	50万都市達成事業	施設に隣接	大通に面する　障害物はない
8	こだま	昭和61年	彫刻のあるまちづくり事業	橋	橋の中央のアールコーブに建つ
9	西郷隆盛像	不明	特に無し	道路沿い	大通りに面する
10	母と子の群像	昭和59年	高見橋の架けかえにあたって	橋	市電の走る大通りの欄干
11	星空と彫刻と滝のオアシス	平成4年	特に無し	施設に隣接	アーケード　バスの停留所が目の前にある
12	カルテット	平成3年	彫刻のあるまちづくり事業	水辺空間(川沿い)	大通りの近く　川辺りの公園内

1）鹿児島大学教授・工博 2）同大学院生

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

※認知度＝（そのP.A.と背景まで知っている人の数/質問に回答した人の数）

3．対象物の属性と認知度

対象物の設置年度と設置場所という2つの属性を軸としてP.A.の認知度分析した結果現われた特徴を以下に挙げる。【図－1】

〔設置年度と認知度〕

昭和61年から平成6年にかけて設置された比較的新しいP.A.の認知度は、約4割以下である。

これに対して、昭和58年から昭和59年にかけて設置された「朝の調」【図－5】と「母と子の群像」【図－11】は5割前後の認知度である。

昭和57年に設置された「若き薩摩の群像」【図－8】と、設置年度は不明だが昭和57年以前に設置されていた「西郷隆盛像」【図－10】は、9割弱の認知度である。しかし昭和40年に設置された「戦災復興20周年記念塔」【図－2】だけは11.3%というとても低い認知度である。

〔設置場所と認知度〕

設置場所の類型としては、道路沿いもしくは施設に隣接したP.A.が高い認知度を得ている。中でも認知度がかなり高い「若き薩摩の群像」と「西郷隆盛像」は、両者とも歩行者や自動車等の交通量の激しい大通りに面して設置されているため認知度が高くなっていると思われる。また「若き薩摩の群像」と「朝の調」は、各々西鹿児島駅と市民文化ホールという施設に隣接しており、利用者の多さが認知度に反映されていると思われる。

認知度の低いP.A.は、そのP.A.単体を知っている人の割合は少なくないのに認知度が低いものと、そのP.A.自体を知っている人の割合が少ないものとがある。前者は、主にアーケード内に設置されたP.A.であり、人通りが激しく被験者は移動しながら見ているためP.A.単体を知っていても背景までは認知していないと思われる。後者は、人通りそのものが少ないことと通りから少し入った場所に設置されているため認知されにくいと思われる。

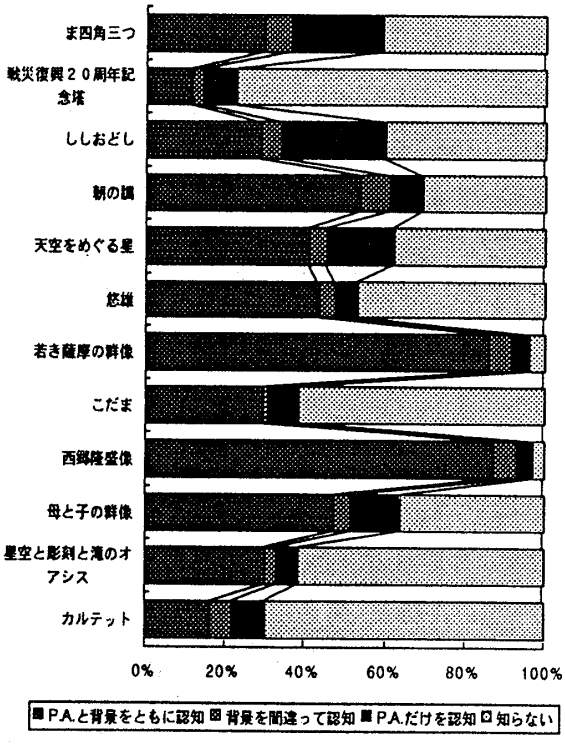
4．被験者の属性と認知度

性別・年齢・鹿児島県での居住年数・居住地域・職業・職業内容の6つの属性を軸として被験者を各々の属性で分類し、認知度との関係をみてみた。顕著に現われた特徴を以下に挙げる。

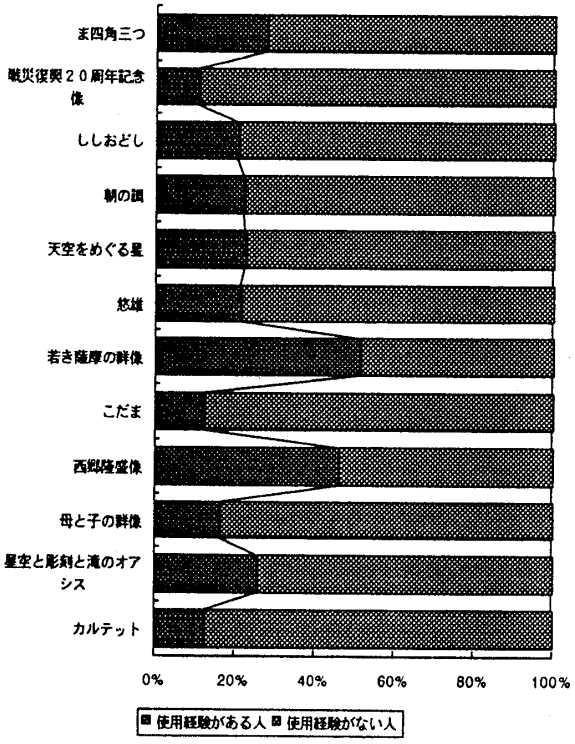
〔性別と認知度〕

「戦災復興20周年記念塔」を除くすべてのP.A.において男性よりも女性の認知度が高かった。中でも認知度の高い「若き薩摩の群像」と「西郷隆盛像」以外の

【図－1】P.A.の認知度



【表－2】P.A.の利用経験



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

P.A.においてこの傾向が著しい。

「星空と彫刻と滝のオアシス」【図－11】においては、女性の認知が男性の認知の2倍近くもあるという結果が得られた。

〔年齢と認知度〕

「戦災復興20周年記念塔」・「こだま」【図－8】・「カルテット」【図－12】を除く全てのP.A.において低年齢層は高年齢層よりP.A.の認知度は高いという傾向が見られた。

「悠雄」においては年齢が低くなればなる程P.A.の認知度は高くなっている。

〔居住年数と認知度〕

全般的に、ある居住年数に達するまでは認知度は上昇を続けるが、それ以上になると認知度は逆に下がる傾向にある。この傾向は認知度の比較的低いP.A.に顕著である。原因としては、居住年数が長い被験者の中には高齢者の割合が多いと考えられ、このことは、高齢者の認知度が低いということと対応しているのではないかと思われる。

〔居住地域と認知度〕

被験者の住所を元に、鹿児島市内を6グループと市外を1グループの計7グループに分けた。今回扱ったP.A.はすべて中央地域に設置されており「若き薩摩の群像」と「西郷隆盛像」以外のP.A.において中央地域の被験者の認知度が高く、市外の被験者の認知が低かった。また北部地域よりの場所に設置されたP.A.は、北部地域の被験者の認知度が高かったことから、P.A.とその周辺に住む人々との関係の密接さの一端を伺うことができると思われる。

5．パブリックアートの実用的な使われ方

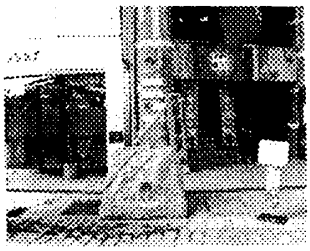
全P.A.において、P.A.を知っている人のうち約1割から5割の人が何らかの目的でP.A.を実用的に使用した経験があることがわかった。そこで、被験者の属性とP.A.の使用経験との関係、P.A.の実用的な用途（『待ち合わせ・集合場所』・『道案内・移動の際の目印』・『憩いの場所』）とP.A.の設置場所との関係をみた特徴は次のとおりである。【図－2】

〔性別と利用経験〕

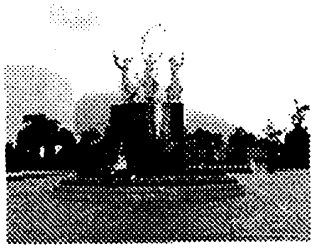
今回調査に用いた全てのP.A.において男性よりも女性のほうが実際に利用した割合が高かった。P.A.に対する女性の認知度が高いということから考えても、女性のP.A.に対する認知度は男性よりも深いという

【図－3】ま四角三つ

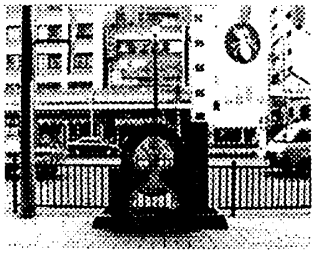
【図－4】戦災復興20周年記念塔



【図－5】ししおどし



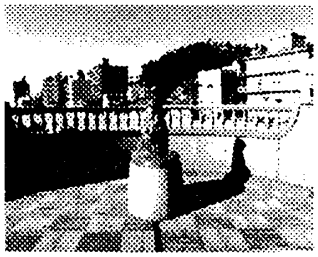
【図－6】朝の調



【図－7】天空をめぐる星

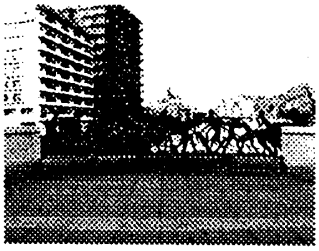
【図－8】悠雄

【図－9】若き薩摩の群像



【図－10】こだま

【図－11】西郷隆盛像



【図－12】母と子の群像

【図－13】星空と彫刻と滝のオアシス

【図－14】カルテット

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

ことが伺えるのではないだろうか。

〔年齢と利用経験〕

年齢が低い被験者は高い被験者よりも、実用的に利用した経験は若干高いものもあったが、年齢による利用経験の差はあまりみられなかった。

〔設置場所と実用的な用途〕

『待ち合わせ・集合場所』

商業ビルや市民ホールなど施設に隣接したP.A.とアーケード内のP.A.はよく使われる。

『道案内・移動の際の目印』

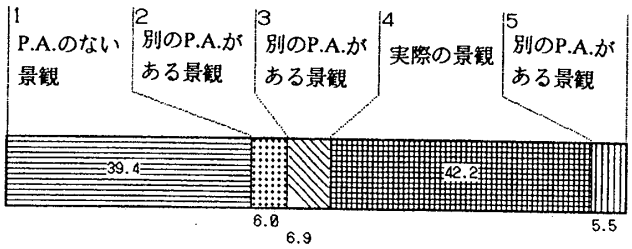
道路沿いのP.A.や橋の上にあるP.A.がこの用途で使われている。またアーケード内にあるP.A.がこの用途で使われることも多い。また同じ川沿いにありながら「戦災復興20周年記念塔」は道案内・移動の際の目印によく利用されているが、「カルテット」はあまり利用されていない。

『憩いの場所』

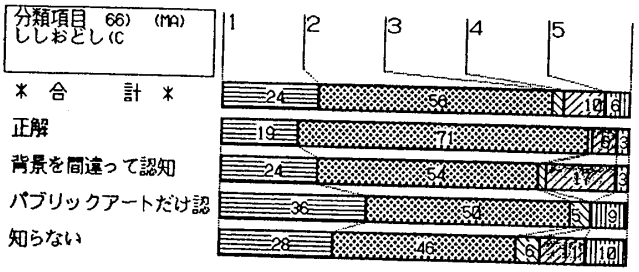
公園や広場内にあるP.A.や川沿いの水辺空間にあるP.A.がこの用途で使われている。またどのP.A.においても、憩いの場所としてP.A.を利用したという人が若干名　いるということは、P.A.のある空間が安らぎを与えているということが伺えるのではないだろうか。

6．認知度と景観に対する印象

今回の調査では、P.A.のある景観に対する印象を好ましさとして調べ、景観の好ましさと認知度の関係を見て現われた特徴を挙げた。



【図－15】景観に対する印象



【図－16】景観に対する印象と認知度

［景観に対する好ましさ］

実際の景観も含めた5つの写真の景観の中から良い印象のものを1つ選んでもらうという形式で4パターン質問した。P.A.の認知にかかわらず、いずれも実際の景観に対する印象が良いと答えた人が最も多かったものの、好ましさにはばらつきがあった。「ししおどし」は、P.A.のない景観がよいと答えた人もかなりの割合でいた。どのような背景にどんなP.A.を置くかによって景観に対する住民の印象は影響を受けると思われる。

［景観の好ましさと認知度］

実際の景観に対して、好ましいと答えるのは、やはりP.Aを知っている被験者の割合がP.Aを知らない被験者の割合より高いという傾向が見られる。また、P.A単体だけを知っているという被験者が実際の景観に対して好ましいと答える傾向が顕著であった。このことからP.Aに抱く印象は、認知と深く関わる傾向にあると考えられる。【図－15】【図－16】

7．考察とまとめ

今回の分析の結果から、次のようなことがP.Aの認知度と関わっているという事が考えられる。

まず設置期間の長さ。次に設置場所としては、道路沿いや大きな施設のそばといった人通りの激しさ、P.Aの周辺に障害があるかないか、P.Aそのものの大きさが影響していると考えられる。P.Aの属性や被験者の属性の違いによって認知度の高低や利用の仕方、印象が影響を受けていることから、認知度を調べることは見る側の意識を探るのにある程度有効だと考えられる。また、今回の調査でP.Aの実用的な使用がどのP.Aにもみられたことから、P.Aの設置の際には、実用的な利用を意識したP.Aのデザインなり周辺環境といったことを考えることも必要なのではないだろうか。最後に、景観の好ましさには認知度の影響が大きいということが分かった。これらのことから、P.Aの設置においては、住民に見えやすくまた触れやすいP.Aを設置する事が住民によい印象を与えることの一端を担っていると考えられるのではないだろうか。今回の調査によって明らかになったことを基に、さらにP.Aに対する見る側の印象と評価につながるような調査と分析について今後研究を進めていきたいと思う。

NII-Electronic Library Service